

2025版 参加チームへの注意事項【学 童】

◆競技運営に関する注意事項◆（競技者必携 P37～40）

1. 大会要項及び本注意事項に記載されてある事項は、チーム全員に徹底すること。
2. ベンチは、組合せ番号の若い方を一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合ベンチの入れ替えは行わない。
3. ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督30番、コーチ29番・28番および選手25名以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー(有資格者)各1名とする。ただし、監督、コーチは20歳以上でなければならない。その他、熱中症対策として、保護者2名までベンチに入ることができる。

※ 監督・コーチ以外は、ユニフォームの着用を認めない。

※ 熱中症対策としてベンチに入った保護者は、作戦指示等を行うことはできない。

4. 打順表の提出は、その日の第1試合は開始予定時刻の30分前までに、第2試合以降は、前の試合の3回終了時に監督と主将が大会本部に6部提出し、登録原簿と照合ののち、球審立会いのもと攻守を決定する。

なお、打順表には参加届に登録された選手全員を記入し、女子選手は背番号に「○」を記載のこと。また、4年生以下の選手には名前の頭に「△」を記載のこと。交換時刻前でも作成が終了した場合は、早めに大会本部へ提出すること。

※ 大会指定の打順表を試合前に配布する。

5. シートノックは、原則として行わない。サイドノックの際にノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカーの近くで捕球する選手はヘルメットを着用すること。

6. 球場内ではトスバッティングのみ認める。

7. 次の試合の先発バッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。

※ 前試合終了から試合開始まで及び試合中のコーチのブルペン捕手を認める。ただし、試合中のコーチのブルペン捕手は岩手県大会でのみ認められている特例であることから東北大会以上では認められていない。(マスクを着用すること)

9. ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。

8. 次の試合の先発バッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。

10. 第2試合以降は、試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分を目安に次の試合を開始する。

11. 試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権とみなす。

12. 雨天でも試合を行うことがあるので、必ず大会本部の指示を受けること。

13. 次のイニングに引き続き投げる投手のベンチ外野側角からポール方向のファウルテリリーでの軽いキャッチボールを認める。また、ブルペンでのキャッチボールは2組4名以内を認める。ただし、競技場の条件(広さ)によっては認めないこともある。

◆競技に関する連盟特別規則◆（競技者必携 P41～45）

1. 試合は6回戦であるが、暗黒、降雨などで6回までイニングが進まなくとも、5回を終了すれば試合は成立する。

※ 制限時間内(1時間30分以内)であっても、状況により試合を打ち切る場合がある。その場合は、その回の開始前に球審から両チームの監督にその旨を伝えることとする。

2. 抗議権を有する者は、監督か当該プレーヤーのいずれか1名とする。

◆試合中の禁止事項◆（競技者必携 P52～53）

1. 選手や審判員に対する全てのヤジを禁止する。（競技者必携 P7【ヤジ撲滅運動展開中】）
2. 危険防止のため、足を高く上げてのスライディングを禁止する。
3. 作為的な空タッグを禁止する。
4. プレーヤーが塁上に腰を下ろすことを禁止する。
5. 試合が開始されたら、控え選手は、むやみにベンチから出てはならない。投手の準備投球にあわせて素振りをするのを禁止する。

ただし、次のことを認める。

- ①攻守交代時にファウルグラウンドで外野方向へのランニングをすること。
 - ②攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし、球審の「プレイ」の宣告までにはベンチに戻ることに。
 - ③攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。
6. 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投球に注視し待機すること。

◆試合のスピード化に関する事項◆（競技者必携 P54～56）

1. 試合のスピード化・マナーに関する確認事項（競技者必携 P11～12）を遵守し、試合のスピードアップを全員が励行すること。
2. 攻守交代時最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
3. 投手の 12 秒及び 20 秒ルールを遵守すること。（競技者必携 P5～6）
4. 打者のバッターボックスルールを遵守すること。（アマチュア内規②）

◆競技者のマナーに関する事項◆（競技者必携 P57）

1. 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
2. ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。
3. マナーを守った節度のある応援については、チームの代表者（監督）の責任において統制をお願いする。（競技者必携 P8【マナーを守った節度のある応援について】）

◆用具・装具に関する事項◆（競技者必携 P58～60）

1. 試合に出場する監督・コーチ・選手のユニフォーム、帽子は全員同色、同形、同意匠のものでなければならない。アンダーシャツ、ストッキングは全員同色のものでなければならない。連合チームは各々の所属チームのユニフォームを着用して出場できる。

※ ユニフォームの上着はズボンに入れること。

※ 同一大会で試合毎に異なるユニフォーム着用を認める。但し、全員統一すること。

2. 左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。
3. 試合に出場する捕手は、安全のためプロテクター、レガース、マスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。

なお、準備投球及びブルペンで投球練習を捕球する選手は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること。（出場中の内野手可）

4. 一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合（金属／カーボン）バットについては、使用制限は行わない。
5. 捕手用マスクは SG 基準合格品を着用すること。

◆その他◆

1. ロジンバッグバックは指先だけで使用し、丁寧に扱うこと。
2. 試合中のグラウンド内のファウルボールは、チームで回収してボールパーソンに渡すこと。
3. 試合が終了したチームは、次の試合のグラウンド整備に協力すること。
4. 記載のない事項は、2025年競技者必携に準ずる。